

進学も石川、就職も石川。



県外出身者だからこそ実感、その魅力。

県外から石川に来て学び、この春、石川の企業に就職する学生に、肌で感じた石川の良さや将来の夢などをうかがいました。



雪国で感じた人情味と懐の深さ

工業高校出身なので進学先は最初から工学系に絞っていました。きっかけは、恩師から「金沢工大は就職に強いから」と薦められて見た大学案内に、メディア情報学科が載っていたことです。それまで、同じITでも裏方の地味なハード制御が専攻で、人に見てもらうためのメディアテクノロジーに引きつけられました。

4年間を振り返って、最も恩恵を受けた石川の魅力はスキー場までの近さです。こっちに来てから本格的にスノーボードを始め、多いときには3日連続や週4でゲレンデに通ったこともあります。講義が午前中だけの時や大きく空く時にも、よく友人と滑りに行きました。

そのゲレンデでは石川の方の人情と優しさを何度も体験しました。初心者の僕を見す知らずの方が滑り方を教えてくれたり、ケータイをなくしたときに一緒に探してくれたりしたのは本当にうれしかったですね。今、コンビニでバイトをしているのですが、気さくに話しかけてくれる常連さんが多く、温かい人が多い土地柄だと思います。関西も人情味のある人は多いですが、石川ではまた違った心の優しさを感じます。

就職活動は、IT系と広告系、両者をミックスしたアドテック系に焦点を合わせました。その中で、地元のITベンダーを選んだのは、石川ならではの懐の深さがあったからです。この秋、あかりのオブジェで夜の街を彩る「月見光路」に携わり、大きな達成感を得ました。社会人になり、これからもっと大きなプロジェクトが待っているかと思うとわくわくしますね。

石川も富山も地元 北陸のために働く

お金や流通に興味があったので経済を学ぶ大学を探していたところ、見つけたのが以前は経済学の単科大学だった金沢星稟大学でした。実家から通える距離だというのが大きかったですね。金沢へは何度も遊びに行っていましたし、父も高岡から通勤していましたからなじみもありました。

金沢に住むことはありませんでしたが、寝るとき以外はほぼこっちにいて、4年間の生活の中心はここでした。金沢と高岡や富山は似ている部分は多くても、違う部分はしっかり違います。最も異なるのは、金沢が質の高い歴史と文化をしっかり残している交流都市だという点です。

金沢駅近辺の居酒屋でアルバイトをしているのですが、全国各地から観光客がやってきて、さまざまな人と出会うことができました。食べ物も、金沢の方が魅力は一段上だと思います。魚介類は富山とほぼ一緒でも、加賀野菜や加賀料理には人を引きつける力があります。

学生が多く、若い力の勢いを感じられるのも好きな点です。自分の大学の学園祭実行委員だったこともあり、市内の大学・短大・専門学校で企画運営する合同学園祭に携わり、多くの学生と協力できたのはいい思い出です。

就職では、顧客第一主義と地域貢献を掲げ、北陸一円に展開する金融機関を選びました。石川、富山と限定するのではなく、この北陸に郷土愛を感じていたからです。仕事で地元北陸に少しでも寄与できるよう、一日も早く、信頼される金融のスペシャリストになるのがこれから目標です。

第二の故郷にこれから貢献したい

もともと國公立大学志望だったことに加えて、民俗学と美術関連の勉強をしたいという希望にぴったり合っていたのが、金沢大学のフィールド文化コースだったんです。実家の愛知からあまり遠すぎず、学力的に見合っていたことも理由でした。

こっちに来るまでは、金沢に対して良い印象も悪い印象も特になかったのですが、今は新旧に関わらず文化を大切にする町の奥ゆきに魅力を感じます。こぢんまりしていて安心感がありますし、図書館が充実しているのも私にはポイントです。

生まれ育った春日井市は、名古屋市に隣接しているものの歴史も文化も浅い、面白みのない郊外のニュータウンだったので、その差が際立って感じられるかもしれません。フィールドワークで何度も足を運んだ能登も、自然にあふれていてとても気に入っています。

ただ、金沢に来てからは、地元では気にすることのなかった天気が気になるようになりました。ここまで曇り続きとは思っていませんでしたし、今では、朝から晴れています。なぜか「よし!」と気合が入ってしまいます(笑)。

4月からは県庁職員として働き始めます。就職はこれ一本に絞っていました。4年間で愛着がわき、第二のふるさとにするならここだと思ったこと、石川をもっと住みやすくする仕事に関わりたいと思ったことが理由です。皆さんの生活をより良くする環境作りに貢献して、私自身も含め、石川で暮らしていくことが「良かった」「楽しい」と思えるようにしていきたいですね。

全国に伝えたい 石川の素晴らしさ

高校では野球漬けで、大学でも野球をやるために北陸大学野球連盟の強豪校で神宮大会にも出場経験のある金沢学院大学を選びました。他の強豪校も選択肢にあったのですが、高校の監督と大学の監督が既知の仲だったことも後押しになりました。

石川に来てうれしかったのは、四季をしっかり感じられることです。北海道は春秋が極端に短く、夏がほとんどありません。ただ、こっちの夏の暑さは当初から雨が多くて屋外練習をやりにくいのもちょっと煩わしかったですね。意外だったのは雪です。札幌の僕の住んでいた地区より、こっちの方がよく積もることにビックリしました。

金沢の繊細な和の美を感じさせる町並みには、雄大な札幌とはまた違った良さがあると思います。けれども、手薄な公共交通はやはり不便です。大学でも野球漬けの寮住まいでの休みは週一日しかありませんでしたが、わずかな休日にリフレッシュを兼ねて茶屋街や兼六園によく出かけていました。

おいしいものが多いのもうれしかったですね。北海道もおいしいものがたくさんありますが、金沢のとり野菜やおでんなどは特に気に入ります。僕が石川での就職を考えたのは、4年間お世話になった縁を大切にし、恩返しをしたいと思ったからです。とはいえ、上場企業メーカーでの営業職希望なので、恐らく県外に配属される可能性が高いと思います。どうなるかは分かりませんが、県外で暮らすことになるなら、僕が感じた石川の素晴らしさを勤務地の人々に伝えていきたいと思っています。